

ことは、曾て自分の論述した如くである（藝文第四年第二號、拙稿回鶻文の天地八陽神呪經參看）

内容とは別に、摩尼經典が外形上佛典の影響を受けたことについての面白い現象として、第三十九文書の一より五の同經典が、佛典の貝葉の形を取つて、細長い紙面に、中央より左寄よりの處に穴を穿つて居るのが注意を惹く。かゝる形式のものは從來紹介されたものゝ中には無かつたと思ふ。

奥書類の中にも種々面白いものがある。就中第十五文書は此の種の斷簡中の最も長いもので、曾てフォイ氏によつて引かれたこともあり（*Sitzungsber. d. Berl. Akad. d. Wiss.* 1904, S. 1399）。シュラー氏も其の一部を譯出したことがある（*Uigurica*. S. 57）。ウイグルのある王の即位の際に於てその聖徳を頌したもので、王の事を *iliginiz iduq qut* = *unser könig, die heilige Majestät* といふてある。この *iduq qut* が漢史に見ゆる亦都護、亦都兀等に當ることは更めていふまでもない。

其の他の小斷片の中にも注意すべき文字の見えて居るのが少くない。例へば第二十四書の中には *Toquz Oyuz* の名が明かに記されたり、第二十五文書中には禮讚かと思はるゝものの中に、「吾等がウイグルの方に來りし時」の文字が見えたり、其の他トルコ族の用ゐた官名、摩尼教僧侶の稱呼、また著者も注意した如く *nom rñi, fisaylir* (*visaya*) *nirvan, sansar* 等の佛語の用ゐられたものなどもあり、種々の研究上役立つべき性質のものゝ多いのが認